

奥の細道むすびの地「大垣」 十六万市民投句

一般の部

令和六年八月度 入賞句一覧 投句数 七百三十五句



特選

名和 永山 選

名優のさり気無き所作夏羽織 静岡県浜松市 人見 亜紀

有名な俳優さんの所作は、普通の人とは異なるという。確かに、身のこなし一つでも、どこか気品がある。まして「羽織」姿は一層粹に感じる。羽織の始まりは「陣羽織」と言われ、江戸時代には女性は使わなかった。しかし現在では洋服のカーデイガンと同じように、和装の上に羽織り、暑ければ脱いだりする。この句の「夏羽織」は、名優の所作を旨く引き出しているのである。

床涼み舞妓の鬢を撫ぜる風 大垣市 平野 順一

「床涼み」は、「川床」と「涼し」の複合語となる。「床」に、「川床」を表す意味もある。「床涼み」で、京都の川床の涼しさを表す。「舞妓」さんが出てきて、「やつぱりそうか」と納得。「鬢を撫ぜる風」が、一層の涼しさを感じさせる。蛇足になるが「撫ぜる」は、一般的には「撫でる」であり、訛り表現である。でもこの場合は「撫ぜる」でも良いであろう。

草も木も雲も動かぬ夏の昼 大垣市 吉田 てるみ

「真夏日の連続日数を更新しています」と、ニュースの声を聞く毎日であった。本当に暑かった。そよ風もない。無風の夏の昼。本当に「何も動かぬ」である。猫の子一匹も外へは出ていない。そんな真夏の様子を、「草も」「木も」「雲も」と、本来は風になびく自然の物の一切が「動かぬ」と断定したことで、「暑さ」が伝わってきた。

秀逸

みどり立つ神苑に座すさざれ石 不破郡垂井町 竹嶋 富美子

片陰や風を呼び込む藍のれん 大垣市 高木 佐知子

放牧の牛に塩盛る朝の虹 埼玉県川口市 吉永 寿美子

海女小屋の恋の自慢や青簾 大垣市 宮上 美濃留

犬猫のゐて夫のゐて端居かな 静岡県浜松市 松浦 ゆり

猛暑日や一朵の雲の動かざる 大垣市 浅野 翔泉

文豪の小さき文机山滴る 大垣市 小林 研

存分に吸へる山の気滝開き 養老郡養老町 佐藤 咲楽

元請の配るしほ飴朝ぐもり 神奈川県横浜市 沼野 大統領

やり直し利かぬ齢よ洩団扇 岐阜市 堀江 美州

入選

青鬼灯昨日の雨を残しけり

大垣市

立川 昌子

風流に生きて涼しや笈一つ

大垣市

宮上 美濃留

採りたてのトマトに残る陽の温み

不破郡垂井町

児玉 信子

八月に聴く長崎の鐘のうた

大垣市

尾関 逸子

裏がへし落ちて風知る桐一葉

大垣市

田中 雅子

つゆくさや地球の色の加はりて

本巣市

山田 香山

青紫蘇をゆつくり刻む平和とや

養老郡養老町

山田 順子

盆踊り主役は今も下駄の音

大垣市

安田 むつこ

馬鈴薯のくぼみや明日の見え隠れ

東京都狛江市

椎野 一恵

露のまに残す想いを流し去り

大垣市

土屋 和馬

透け見ゆる細き竹ひご岐阜提灯

大垣市

川瀬 恭子

無作法を許せや酒に豆御飯

東京都新宿区

故里恋心

丸漬けの茄子あをあとと玻璃小鉢

愛知県豊田市

城山 悠水

水鶏鳴く湊に点る常夜燈

愛知県津島市

浅井 カバ先生

引き戸開け土間の一步の涼しかり

愛媛県松山市

平野 ヒサエ

選者吟

稲穂いま成長痛のゆれの中

永 山



一般の部